第１分科会　　研究領域　学校経営　①校長の職務
研究課題　社会に開かれた教育課程実現に向けた創意と活力にあふれた学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
堀之内　健志（加古川・平岡東）	嶋　基伸（加古川・鳩里）	安茂　聖二（加古川・神野）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、令和６年度、児童数 652 人、26 学級（内特支５学級）の中規模校、創立 49 年の学校である。また、外国人児童や外国にルーツのある児童が多数在籍している学校である。

平成 31（令和元）年度に学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域が「目ざす子ども像」を共有し、その実現に向けて協働して取り組むことで、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している。新型コロナウイルス感染症の影響による様々な制限により、思うような教育活動ができない時期もあったが、今一度、学校・家庭・地域の連携を深めつつ、アフターコロナの教育活動の展開を模索している。

2　具体的な取組

(1) 校区ユニットとしての取組

ア　目指す子ども像の共有

・中学校卒業時点での目指す子どもの姿を、中学校区内の中学校、小学校、幼稚園、民間保育園が共有し、各校園が幼児・児童・生徒の発達段階に応じた活動を行う

イ　中学校区校園長会で情報共有

・毎月開催し、各校園の教育課程の進捗状況等について情報交換を行う

(2) 家庭・地域への周知・啓発と連携

ア　情報発信

・学校の教育活動の趣旨や活動の実際、家庭における子育ての参考となる情報等を、毎週発行する学校だよりを通じて周知・啓発を行う

イ　学校運営協議会を通じた地域との連携

・学校支援ボランティアや登下校見守りボランティア等の拡充に向け、学校運営協議会から町内会連合会へ働きかけてもらい人材発掘を行う

(3) ＰＴＡ改革を受けたＰＴＡとの連携の在り方の見直し

ア　業務の取捨選択

・子どもたちのために必要な業務は何かという視点や昨今の社会情勢を鑑みながら業務の取捨選択を行い、ＰＴＡ活動のスリム化を図る

・これからのＰＴＡの在り方についての学校とＰＴＡとで検討を進める

3　おわりに

アフターコロナの現在、校長には、従来の形にとらわれすぎず、社会に開かれた教育課程の実現に向けヒト・モノ・コトをマネジメントしてく力が求められていると強く感じる。今後も、自己研鑽に励み、教育課程を社会と共有し、子どもたちの夢を育む学校経営に努めていきたい。

第１分科会　　研究領域　学校経営　②組織･運営
研究課題　学校組織の運営を工夫した学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
中正　達也（神崎・高岡小）	多田　謙吾（神崎・寺前小）	岸原　史明（神崎・神崎小）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、年々児童数が減少し、今年度は、全校児童数 36 名で完全複式となった。それにより、学校経営、教育課程、学習指導において、様々な課題や困難さもあるが、少人数、複式学級の利点を生かしながら、学校教育目標「自ら学び、行動し、心豊かにたくましくいきる高岡っ子の育成」の実現に向け、職員一丸となって取り組んでいる。

2　具体的な取組

(1)学習指導での複式学級としての工夫

道徳、体育、図工、音楽、家庭、総合的な学習、学活は発達段階に即して内容を吟味し、複式学級での授業を実施している。異学年での学習を通して、児童間での相乗効果（上の学年にはリーダーシップ､全体には協調性､思いやりの心などの社会的スキル)が生じている。

国語、社会、算数、理科、外国語では、各科の内容構成上、単学年での授業形態をとることで、少人数指導になり、子どもたちの学力向上を図っている。

(2)教育課程編成の工夫

ア　地域教材及び地域人材の積極的活用

・環境教育（3・4 年）モリアオガエルの飼育　・米づくり体験（5・6 年）
・サツマイモ栽培（1～4 年）　・七種太鼓（全学年）　・ひょうたん栽培（3・4 年）

イ　教員の専門性を生かした授業

全学年で教科担任制を導入することで、全教職員での児童理解、授業の質の向上、教員の負担軽減にもつながっている。

ウ　オンライン授業の実施

他者に自分の考えを伝えたり、多様な考え方や見方に触れたりできるように町内の学校とオンライン授業を実施している。

3　おわりに

全国的に問題となっている少子化の波は本校でも直面している課題であり、今後も児童数はさらに減少することが見込まれている。現代社会を生きる上で、確かな学力と共に、よりよい人間関係を構築する能力は不可欠である｡｢個は集団によって磨かれて育てられていく｣と言われるが、小学生の時期にこのような能力を育てていくことが大切である。今後も教職員と共にアイデアを出し合い、子どもたち一人一人に寄り添いながら、よりきめ細やかな指導等小規模校ならではの特色を生かした学校づくりを推進していきたい。

第２分科会　　研究領域　教育課程　①豊かな心
研究課題　豊かな心を育む学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
村田　佐織（高砂・伊保南）	坂田　克己（高砂・高砂）	岡本　浩子（高砂・米田西）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、高砂市の南に位置し、264 名 14 学級（うち特別支援学級 2 学級）で、校区の南側は、大きな公園や商業店舗、工場、公共事業所が集まっており港もある。また、校区の北側は閑静な住宅が並んでいる。従来からの居住者とここ数年増えた新興住宅地の住民が混在しており、従来からお住まいの方を中心に地域の子どもたちのためにと、学校運営に協力的な方が多い。

今年度の学校経営目標を「すべては、南っ子の笑顔のために～子どもは、みな、伊保南校区の宝である～」とし、学校・保護者・地域のつながりを大切にし、子どもたちを育てていこうと取り組みを進めている。

2　具体的な取組

(1)体験を通した学び～地域の力を活用して～

ア　校区探検（環境体験学習）　　3 年生
　・ヒラメの稚魚の放流　タッチプール
　・海苔の養殖・生産体験

イ　町たんけん　　2 年生
ウ　エコ環境リサイクル　4 年生
エ　自然学校　　5 年生
オ　昔遊び交流　　1 年生
カ　職業人に学ぶ　　6 年生

(2)児童会活動を通して～学校のみんながつながる～

ア　あいさつ運動　　運営委員会
イ　体育倉庫解放 week　　体育委員会
ウ　南っ子フェスティバル　代表委員会

(3)地域と連携した取り組み ～地域とつながる～

ア　お話広場・お話玉手箱
イ　見守り活動（登下校）
ウ　クリーンキャンペーン
エ　学校運営協議会の学校支援

3　おわりに

「子どもたちは校区の宝」と教職員が捉え、様々なつながりを生かして、子どもたちの笑顔を大切にした学校づくりを進めているところである。今後はさらに「地域の真ん中に学校がある」と、地域の方に思っていただけるよう、教職員だけでなく地域の方とのつながりを深め、豊かな心が育めるよう学校運営をすすめていきたい。

第２分科会　　研究領域　教育課程　②確かな学力
研究課題　確かな学力の向上を目指す学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
安東　博之（養父・関宮）	垣尾　正幸（養父・大屋）	西山　佳代子（養父・建屋）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、令和２年４月に旧町内にあった１小１中を合わせ、新たに義務教育学校として開校した。児童生徒数 193 人の全学年単学級の小規模校である。

また、コミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が連携・協働し「地域とともにある学校づくり」を推進している。

2　具体的な取組

(1) 義務教育学校の強みを生かした取組

ア　教科担任制の推進

前期課程（小学校）の高学年を中心に、後期課程（中学校）の教職員が乗り入れ授業を行い、専門性の高い授業を行っている。なお、後期課程においても、前期課程の教員の乗り入れ授業により、免許外の解消を図っている。

イ　教職員の合同研修

小中一貫教育が体感できる環境の下、前期・後期の教職員が共同で研修に取り組み、系統性を重視した指導に努めている。

(2) 授業改善

ア　学ぶ喜びを感じさせる授業

自ら課題を見つけ、新たな発想を生かして課題解決にチャレンジできる場面を設定する。

「本物は続く、続けると本物になる。」続けるためには、楽しいと感じる機会を増やす。

イ　ふりかえりを重視した授業

本授業での自分自身の気づきを明確にするとともに、気づきを他者と共有する。

(3) 家庭との連携

「そうあんくんの日」の設定

郷土の先人である池田草庵先生の教え「慎独」を生かし、家庭でノーメディア、読書活動などに取り組む。これをきっかけに、児童の自学自習しようとする意識の高揚に努めている。

3　おわりに

今年度、道徳教育の県の研究指定を受けている。「対話」「系統性」をキーワードに授業改善を行っているが、この成果を道徳だけでなく、全教科の指導に役立て、引き続き確かな学力の向上に努める。

第３分科会　　研究領域　現職教育

研究課題　教職員の資質･能力を向上させる学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
藤本　憲正（赤穂郡・高田）	森中　誠（赤穂郡・上郡）	安西　浩美（赤穂郡・山野里）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校の校区は、上郡町の東南部に位置し、学校は児童数 129 名、教職員数 20 名、通常学級７学級、特別支援学級２学級の小規模校である。町内は他に小学校２校、中学校１校があり３小１中学校体制である。本年度は教職員の資質・能力の向上の核となる研究推進（校内研修）の研究テーマを「だれもが自分の思いや考えを主体的に表現し、課題解決しようとする授業づくり」とし日々の研究実践に取り組んでいる。

2　具体的な取組

(1) 目指す児童像を共有し日常の実践を積み上げる

ア　教職員評価による教育活動の点検・改善

教育目標の達成状況を振り返り、達成に向けて全教職員で取り組む意識づけを行う。

児童も教職員も小さなできることを積み重ねることで自信とやる気をもてるようにする。

イ　朝の活動の活性化

話し合い活動を充実させるためにも、児童の言語能力・表現力を高める活動に全校で取り組む。(朝の会の共通プログラム　・朝読書　・朝の歌　・群読　・朝のスピーチ)

全ての学級担任が定期的に他学級の朝の会に入り交流する。１年⇔５年　６年⇔３年　等活動への助言や自治能力等他学級の実践から学ぶ。学年の指導の積み重ねを意識する。

(2) 学校の教育課題への対応

ア　若手研修担当や学力向上担当が計画し算数科の学力向上のための指導の工夫（公開授業やＩＣＴ機器の活用）を積極的に行う。

イ　発達特性を持つ児童への関わりについて学ぶ。特別支援教育コーディネーターが中心となって計画し実践につなげる。

(4)小中学校間が連携した教員研修

ア　小学校間の連携

各小学校で実施される講師招聘による研究授業や研修会等については、担当者間で連携し他校教職員へも参加を周知する。町全体の教育力向上のため質の高い研修の機会を保障する。

イ　中学校との連携

町内小学校児童の大多数が上郡中学校へ進学することから、小中学校間の結びつきは強い。各教科・教科外担当者会は小中学校両教員で構成され、小中学校での授業公開には相互が積極的に参加し教科の系統性を意識した研修が行われる。生徒指導や学力向上についても小中９年間を意識した研修が行われ、町全体の指導の方向性を協議することができる。

3　おわりに

教職員の資質・能力の育成は、学校教育目標の実現、学校の教育課題の解決、児童の実態の改善のための研修・研究・実践を通して行われる。教職員一人一人が学校運営の担い手として学校の抱える教育課題を自分自身の課題と捉え、授業改善であったり生徒指導について学校組織として取り組むことが目標の実現に有効であることを自覚させたい。

第３分科会　　研究領域　現職教育
研究課題　教職員の資質･能力を向上させる学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
多田　俊朗（加西・加西特別支援）	菅野　裕之（加西・富田）	高見　秀樹（加西・富合）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、小学部・中学部・高等部が設置されている市立の特別支援学校である。今年度、小学部 18 名、中学部 16 名、高等部 25 名が在籍している。学校教育目標を「明るく、強く、自立する子の育成」とし、児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、その個性や特性に応じて、社会的自立に必要な基礎的知識や技能、態度を養うこと、社会の一員として生きていく心豊かな子の育成を教育方針として、日々の教育活動を推進している。

教職員は、「研究は鋭く、勤務は厳しく、人間関係は温かく」を合言葉に、使命感と向上心をもち、個々の資質・能力と「チーム加西特別支援学校」としての組織力向上に取り組んでいる。昨今、世代交代が進み、教職員の年齢構成と特別支援教育の専門性のバランスに課題を感じている。

2　具体的な取組

(1)校長のリーダーシップ　― 人の心を動かす ―

ア 絶えず、自分のもとで働けるかを自らに問い続いける（離見の見）

イ 学校教育目標･学校経営方針の共有 ＋α

(2)研究は鋭く　― 教師は授業で勝負する ―

ア 研修体制の確立（授業力、保護者対応力、事務処理能力）

イ ７：２：１の法則

(3)勤務は厳しく　― こころよき 疲れなるかな 息もつかず 仕事したる後の この疲れ ―

ア 教職員の意識改革

イ ミドルリーダーと若手教職員の育成

(4)人間関係は温かく　― 苦を共に乗り越えた教師集団 ―

ア 常に感謝の心を忘れず、当たり前のことを大まじめにする

イ 子どもを中心にした対話を大切にし、気付きを発信する

3　おわりに

「やってみせ　言って聞かせて　させてみて　ほめてやらねば　人は動かじ
話し合い　耳を傾け　承認し　任せてやらねば　人は育たず
やっている　姿を感謝で見守って　信頼せねば　人は実らず」

現職教育は、校長として道筋を明確に教職員に示すことが大切である。校長が発する言葉、行動、態度を通して、まず安心させ、認め、励まし、時には追い込んで使命感を喚起させる。当たり前のことを、いかに大まじめに行うかである。加えて、教職員が互いに認め合い、励まし合うことのできる人間関係を構築し、明るく働きやすい職場環境づくりに日々努めることこそが、個々の資質・能力と組織力向上につながると考える。

第４分科会　　研究領域　生徒指導
研究課題　豊かな人間関係を築く学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
西村　奈保子（小野・下東条）	藤原　正伸（小野・小野）	藤野　政憲（小野・大部）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は，小野市の最も東部に位置し，校区は加東市と三木市に隣接している。緑豊かな田畑と里山に囲まれた地域にあり，現在４割近くの児童がスクールバスで通学している。児童数は，104 名，全８クラス（うち特別支援学級２クラス）の規模である。元々3 世代同居が中心の農村地帯であったが，1988 年以降，一部別荘地や住宅地として開発された地区があり，その後の急激な児童増により，子どもたちが落ち着かない時期を経験している。しかし，当時からの教職員の懸命な取組と現在の児童理解をベースにしたチームによる指導・支援及び縦割り班活動を軸にした望ましい人間関係づくりにより，保護者や地域との信頼関係を構築しつつある。

2　具体的な取組

(1)いじめを生まない土壌づくり・人づくり　（未然防止）

ア　人権教育の充実　～多様性を受け入れ共生の心を育む～
　　縦割りなかよし班活動　親子人権学習　パラスポーツ体験

イ　豊かな体験活動の充実（他者や地域社会、自然と直接的に関わる体験，福祉体験）
　　自他の命を大切にする取組

ウ　自主的な児童会活動　（自主自律，社会的自立の基盤づくり）
　　あいさつ運動,言葉遣い,ゲーム・インターネットの使い方

(2)危機管理　早期発見・早期解決　（小さな変化に対する敏感な気づき）

ア　日々の観察（登校時，休み時間，昼休み,放課後等）
　　校内巡視及び児童との会話　「子どものいるところには教師がいる」

イ　日記,連絡帳,生活ノートの活用　担任と児童、保護者からの情報収集

ウ　生活アンケート,いじめ調査アンケートの実施　ケース会議

(3)組織的な生徒指導体制

ア　いじめ等防止対策委員会　有効な支援の情報共有　複数対応

イ　職員研修　愛着の形成　虐待防止　カウンセリングマインド

ウ　SC・SSW との連携　中学校区の小小・小中連携　教育相談

3　おわりに

学校が子どもにとって豊かな人間関係を築く場であるために，全教職員がそれぞれの立場で、常に「チームワーク，ネットワーク，フットワーク」を意識し，連携を密に一人一人の子ども理解を基盤に据えた指導と支援を組織的・継続的に進めているところである。今後も，子どもたちが，学校や家庭，地域の人とのつながりの中で安心して過ごし，個性を輝かせて心身ともに健全に成長する，そして地域や保護者に信頼される学校づくりをめざしていきたい。

第４分科会　　研究領域　生徒指導
研究課題　豊かな人間関係を築く学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
柿本　由子（姫路・前之庄）	弓岡　玉緒（姫路・妻鹿）	藤田　万由美（姫路・勝原）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は姫路市北部の夢前町に位置し、令和７年度に 150 周年を迎える豊かな自然と伝統文化に恵まれた学校である。「夢や希望を語り、仲間とともにたくましく生きる児童の育成」を学校教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。めざす学校像を「学び合い　笑顔で　のびゆく将来へ」という合言葉で子どもたちとともに確認し、今年度をスタートしている。

2　具体的な取組

(1)「学び合い　笑顔で　のびゆく　将来へ」の具現化

ア　「学び合い」に重点を置いたわかる授業づくり

研修テーマ：豊かな人間関係力～自分も友だちも大切にできる子に～

イ　前之庄小ならではの魅力ある教育活動

夢前の自然を愛する子に　　天神ノ森梅の実とり体験　夢前川生き物調査

夢前の伝統文化を大切にする子に　佐野邸保全プロジェクト　明神太鼓　新庄獅子舞

(2) 児童理解にもとづいた支援体制の構築

ア　子どもを語る会

特別支援教育の観点からの児童理解　よりよい姿がイメージできる声かけ

イ　生活指導委員会

児童理解に基づく指導方法や指導体制を確認し、継続的に工夫・改善

(3) 家庭や地域とつながる学校

ア　学校ホームページと Google サイトでの情報発信で開かれた教育課程に

教育活動のねらいや子どもたちの成長をリアルタイムに発信

イ　学校評価による運営改善

児童・保護者・教職員の三者アンケートを学校運営改善に活用・公開

3　おわりに

改定された生徒指導提要に示されている重層的支援構造に則り、本校生徒指導の実際と今後の課題を見直した。夢前町という豊かな自然と伝統文化に恵まれた学校という強みを生かし、これからも学校は地域への情報発信を行い、多くの協力を得ながら、子どもたちを見守っていけるように努める。そして、日々の授業での学び合いにより、自分も友だちも大切にする子どもたちを育て、児童一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりに励んでいきたい。

第５分科会　　研究領域　人権教育
研究課題　お互いの人権を尊重し,「共に生きる心」を育む学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
石川　一也（姫路・高岡西）	中村　暢秀（姫路・津田）	小林　生也（姫路・安室）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は南に秩父山・船越山、北に振袖山、西に夢前川が流れている自然に恵まれた地域で現在児童数 362 名(通常学級 12、特別支援学級 2)の学校である。保護者や地域は学校に対して協力的で、「高丘中学校区(高丘中学校・高岡小学校・高岡西小学校)は一つ」「子どもは地域の宝」を合言葉に高丘中学校区間での交流も盛んである。学校は家庭・地域との連携を大切にしながら、同和問題をはじめとするさまざまな人権課題の解決を図るために計画的に人権教育に取り組んでいる。

2　具体的な取組

(1)学校の取組

ア　ふれあい・体験活動を大切にした仲間づくり

〇特別活動を大切にした活動

〇異学年交流・ペア交流

イ　仲間づくりを充実させるための工夫した教育活動

〇運動会等の学校行事

〇ＩＣＴを活用した学校行事

(2)学校と家庭・地域との交流

ア　ＰＴＡ活動

〇ＰＴＡが中心となって計画している学年行事

〇ＰＴＡ主催の各種団体と保育園・幼稚園・小中学校の交流会

イ　地域と連携した活動

〇高岡西ふれあい文化祭　秋祭り

〇姫路市校区人権教育推進委員会の取組

(3)同和教育推進校校長協議会の取組

〇研修・フィールドワーク・講演

3　おわりに

学校は積極的に家庭や地域と連携しながら、全教育活動を通して計画的・意図的に人権教育に取り組んでいる。校長はこのような学校づくりをするために教職員の人間関係や風通しのよい職員室になるように気をつけながら学校全体が人権意識を高く持ち、人権尊重の精神がみなぎっている環境を作っていくことが大切になってくる。

第５分科会　　研究領域　人権教育
研究課題　お互いの人権を尊重し,「共に生きる心」を育む学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
橋本　泰一（三木・三木特別支援）	横田　浩一（三木・三木）	井上　紀代美（三木・自由が丘東）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は知的障害の市立特別支援学校で、小学部、中学部を設置しており、児童生徒数は 33 人である。本校は開校当初から交流活動を積極的に行ってきている。近年ではコロナ禍により保護者同士のつながりが希薄になり不安を抱える保護者が増えた。そこで、保護者同士をつなぐ取組を行い不安の解消を図ってきた。今回は以上の 2 点について報告する。

2　具体的な取組

(1) 交流及び共同学習

ア　居住地校交流

小中学部ともに、それぞれの児童生徒が居住する小中学校で交流活動を行う。年 3 回を基本としている。実施にあたっては児童生徒に関する情報交換を丁寧に行い、お互いの児童生徒にとって楽しく有意義な交流になるように努めている。

イ　地域校交流

学校の所在地を校区とする中学校区の学校と交流を行っている。中学校が 1 校、小学校が 3 校で、年 1～3 回の交流を行っている。対象学年は、小学校が中学年、中学校が 1 年生である。たくさんの人数が一度の交流を行うため、グループ分けや活動内容を工夫している。

(2) 保護者同士のつながり

ア　お話会

月 1 回、本校保護者を対象として開催している。フリートーク形式で、気になることや困っていること等の知りたいことを自由に情報交換できるようにしている。

イ　こどもミライトーク

三木市手をつなぐ育成会と協力し、先輩保護者との情報交換の場として行っている。対象は小中学校特別支援学級と特別支援学校に在籍する児童生徒の保護者である。就労に関することや年金の受給方法等、少し先のことであるが知っておいた方がいいと思えることについて、先輩保護者から積極的に情報発信してもらえている。

3　おわりに

「共に生きる心」を育むことをねらいとして、取組を進めている。特別支援学校において共に生きるとは、子どもに関わる全ての者が重なり合い、支え合うことから始まる。また、関わる者の輪を広げることで、より厚みのある共生社会が形成されると考える。これからもできる限りのことを地道に取り組んでいきたい。

第６分科会　　研究領域　健康教育･食育
研究課題　たくましい心身を育み，健全な食生活を目指す学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
篠原　弘充（佐用・上月）	松阪　智幸（佐用・三日月）	尾﨑　貴之（佐用・佐用）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、学校教育目標を「夢や希望をもち　未来を切り拓く　上月っ子の育成」とし、心優しく、たくましい児童を育てるため、校内の教育活動で完結せず、地域とのつながりを大切にした教育活動を行ってきた。そんな中、令和４年度に、県の指定を受け播磨西地区の学校食育実践研究大会を開催し、それを機に食に関する教育の研究を推進することとなった。食育の研究を進めるにあたり、改めて地域を知り、見直すことから始めたいと考え、研究テーマを『食に関心をもち、ふるさとを大切にする上月っ子の育成～「知る・深める・生かす」学びを通して』」と設定した。

2　具体的な取組

(1) 各学年の取り組み

ア　低学年

１年生が給食に慣れてきたころに佐用町給食センターの見学を行い、自分たちが食べる給食ができる過程を知る学習を行った。２年生は、校区内の福祉施設の方と野菜の収穫作業を行い感謝の心を持つようにした。

イ　中学年

３ 年生は佐用特産のもち大豆の収穫作業を体験し、もち大豆を加工したきな粉を作り、地元の食材への関心を持たせた。４年生は社会科の学習の中で、食を取り巻く環境について考える場面を設定した。

ウ　高学年

５年生は、校区の農園の方に協力いただき、田植え体験稲刈り体験を行った。６年生は、上月中学校の１年生といっしょに地域探訪学習を行い、地域の歴史と食文化について学習を進めた。

(2) 食育環境の整備

ア　校内掲示板を用いて、食育クイズや話題を掲示し児童への啓発を行った。

イ　職員室前の給食献立栄養白板を使って給食委員会の児童が食材の３色分類を行った。

3　おわりに

食育に取り組む中で、改めて、児童が地域の中で育てられていることを実感することができた。自然環境にも食環境にも恵まれた本校・本町の利点を生かし、これからも児童の生涯の礎となる食育を進めていきたい。

第６分科会　　研究領域　健康教育･食育
研究課題　たくましい心身を育み，健全な食生活を目指す学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
森山　健二（豊岡・八代）	赤木　慈郎　（豊岡・福住）	北川　尚宏（豊岡・資母）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、豊岡市の南西部に位置し西側には大岡山を見上げ、南側には八代川が流れるなど、豊かな自然に囲まれている。全校児童は 20 名、少人数のよさである上級生と下級生の縦のつながりを大切にしている。本年度からは小規模特認校として改めてスタートを切った。「太鼓」「一輪車」「創作」の特色ある取組と、地域が主体となって「八代オクラの栽培」や「自然体験」「プログラミング教室」を行うなど地域とのつながりを強みとしながら学校運営を行っている。

しかし、多様な考えに出会う機会が限られること、物事を自分事として捉え主体的に関わろうとすることに課題が見られる。そこで、地域、家庭、関係機関と連携しながら地域の産物や食文化に興味を持ち主体的に関わろうとする態度を育てるため下記のことに取り組んだ。

2　具体的な取組

(1) 地域、学校給食センターと連携した「八代オクラの栽培」
　ア　「八代オクラ」の苗植え、収穫体験
　イ　栄養教諭による食育指導
　ウ　学校給食への提供「八代オクラの中華天ぷら」
(2) 総合的な学習の時間「ふるさとの宝物を見つけよう」
　ア　八代コミュニティにインタビューに行こう
　　「八代オクラ」の特徴　　「八代オクラ」の歴史　　「八代オクラ」の育て方
　イ　「八代オクラ」を育てよう
　ウ　「八代オクラ」を使った料理を作ろう
　エ　お家の人、地域の人に伝えよう
(3) 家庭と連携した取組
　ア　お弁当の日
　イ　ＰＴＡ教育講演会
(4) その他
　ア　健康委員会による呼びかけ
　イ　教員による廊下掲示

3　おわりに

地域の特産品である「八代オクラ」を教材として取り入れることにより、子どもたちが身近な食材に興味を持ち主体的に学習に取り組む姿が見られた。また、栽培を通して多くの人と出会い、ふるさとのことをより深く知るきっかけにもなった。今後も、食育を通してふるさとのよさ、地域等とのつながりのよさを感じながら主体的に学ぶ子どもの育成に努めていきたい。

第７分科会　　研究領域　特別支援教育
研究課題　一人一人の教育的ニーズに対応した学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
谷田　安雄（香美・兎塚）	安田　雅司（香美・小代）	寺田　浩史（香美・香住）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、1221m 鉢伏山のふもとにあり、西日本有数の「ハチ北スキー場」や兎和野高原野外教育センターといった施設があり、自然が豊かな環境の中にある学校である。全校児童 32 名で、学級数は５（１年生の在籍がなく、通常５学級）の小規模の学校で、通級教室には２名が通っている。配慮や支援が必要な児童・家庭が多く、2 年生にあっては４名中２名が支援の必要な児童である。特別支援教育を学校経営の重要な柱に掲げ、小規模校の強みである“きめ細やかな教育”を行いやすい環境を活かし、一人一人の成長のみとりを確実に行う実践に努めている。要支援児童に必要な支援は、全ての児童にとっても、必要な支援であることを教育活動の根底に置き、教職員が一つとなって取り組んでいる。

2　具体的な取組

(1)特別支援教育の目標や見通しの明確化

ア　学校経営方針、全体計画

イ　魅力ある学校づくり

(2)組織的な支援体制の構築

ア　校内教育支援員会　　ケース会議　　児童理解

イ　特別支援教育コーディネーターの指名

ウ　SA、介助員との連携

(3)外部機関との連携

ア　出石特別支援学校みかた校

イ　町福祉課　民生委員　SSW　等

(4) 教職員の専門性の向上

ア　校内研修　校外研修

イ　校内通級

3　おわりに

要支援児童に対してどのような支援が最適なのか、教職員で検討を重ね、模索しながら実践をしている。実践をしていく中で、現２年生の２名の児童の成長の変化の様子を見ると、要支援児童が生き生きと活動をしている側には周りの児童の温かい支えがあり、周りの児童も生き生きとしていることに気がつく。特別支援教育の充実は、誰もが幸せになるウェルビーイングの実現に欠かせない重要な柱であることを実感する。

第７分科会　　研究領域　特別支援教育
研究課題　一人一人の教育的ニーズに対応した学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
山本　浩勝（姫路・余部）	黒田　直樹（姫路・網干）	岸野　雅子（姫路・青山）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、姫路市南西部に位置し、揖保川を隔てて、たつの市に接している。河川敷には「水辺の郷」が整備されており、自然に恵まれた学校である。

今年度は児童数 250 名、特別支援学級２学級を含む 11 学級でスタートした。児童数は年々減少傾向にある。特別支援学級は知的４名と自閉・情緒５名である。

2　具体的な取組

(1)教育課程編成について

ア　一人一人のニーズに合わせた教育課程の編成

・保護者と相談　・学校全体で話し合い

イ　個別の指導計画の作成

ウ　長期的な視点に立ち、関係機関と連携した支援（合理的配慮　引継ぎ等）

(2)組織として

ア　特別支援教育推進委員会（月１回）児童理解　支援計画

・児童にとって危険な活動時　教員の支援計画　保護者の協力依頼

・多様性に応じた教育

イ　交流学級での学習支援の具体的方法（個々の目標設定）

・全教職員が１週間に１度は必ず特別支援学級の指導に入る体制づくり

・困ったときに助けを求められる力の育成（助け合いの精神）

ウ　通級指導の効果的な活用

⑶課題

ア　インクルーシブ教育の推進

・交流学級の児童への対応と学級経営

イ　教職員の特別支援教育の専門性向上

・ユニバーサルデザイン（授業 UD）

3　おわりに

特別支援教育の大きな目標である自立を達成するために、また、子供たちの多様性に応じた指導・支援を展開するために、校長のリーダーシップの下、学校全体で取り組んでいる。全ての子どもが認め合い、安心して学べる学級づくり、児童に応じた合理的配慮の提供、切れ目のない一貫した支援など、特別支援学級担任だけではできない。

組織として対応できるよう、今後も校長がリーダーシップを発揮し取り組んでいきたい。共生社会の実現に向けた特別支援教育に関する理解促進にも力を入れ、人生 100 年を通じた学びの推進をしていく必要性も強く感じている。

特別分科会　　研究領域　教育課題　①防災教育
研究課題　あらゆる災害に対して，震災の教訓を生かし
防災体制を充実する学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
金井　有一郎（明石・中崎）	宮田　亘（明石・山手）	長濵　尚幸（明石・大観）

提 案 趣 旨

1　はじめに

インターネットやゲームの普及といったことから、日常的な地域との関わりが少なくなってきた。このような中でも、中崎の街で今も機能しているのが『ＰＴＡ』『スクールガード』『中崎まちづくりの会』『ＳＣ２１』等の地域の方々とのふれあいである。防災体制を充実させるためにおいても、子どもたちが地域の人と集える日常の場、地域の人とふれあえる日常の空間はとても貴重であると考えている。また、阪神淡路大震災のことを子どもたちに問いかける授業を通して、震災の教訓を生かそうと取組を進めているところである。

2　具体的な取組

(1) 日常のふれあいの場

ア　『スクールガード』『みんなの運動会の開催』

イ　『みんなで避難訓練』等、地域等からの応援

(2) 震災当時の新聞を活用して

ア　「1995.1.17　兵庫県民はなぜ大切にしてきたのだろう」

3　おわりに　校長室だより『みどりの風』から

１月 17 日には、避難訓練を始めとして、震災に関する話をする機会があったことと思います。これからも、いろいろと子どもたちには聞かせてやってほしいなと思います。防災意識は知ることから始まるという一面もあります。これからは阪神・淡路大震災を経験したことのない職員で構成される学校となることでしょう。そんな近い未来でも阪神・淡路大震災から得られた教訓が学校現場の防災教育の礎となっているようであればいいなと思います。

うれしいことに、中崎っ子６年生が校長室まで手作り黄色封筒の中に手紙を入れて持って来てくれました。『先日は、阪神・淡路大震災についてお話いただきありがとうございます。昔の新聞は色が違ったり、当時のことが書かれたりしていて、とても分かりやすかったです。今日の避難訓練の話などもすばらしかったと思います。』

『みんなで避難訓練』でも感じられたことと思いますが、防災の要は、日ごろの小さなやりとりだと思っています。学校側からは、地域には何一つ協力依頼を行っていません。ただ「避難訓練を行います」とお話しただけです。すると、「いっしょにさせてください」と提案があったのです。天文科学館でのお話も、いつもの校長の無茶ブリです。にもかかわらず、あのようにそれぞれの立場からお話をして下さいます。これは、日ごろの小さなやり取りの積み重ねがもたらす成果だと思っています。私は、安心して無茶ブリをしています。きっと応えてくれると信じているからです。日ごろの小さな一つ一つを積み重ねると、どんなステキな場面につながっていくのか、どんな雰囲気をつくれるのか、どんな関係になっていくのか、そんな積み上げた先の明るい未来を意識して取り組んでいます。モットーである“積小為大”、その言葉そのものです。

特別分科会　　研究領域　教育課題　②外国語教育
研究課題　豊かなコミュニケーション力を育む外国語教育を目指す学校づくり

提　案　者	司　会　者	記　録　者
田辺　育恵（揖龍・御津）	谷口　治（揖龍・太田）	寺前　健一（揖龍・西栗栖）

提 案 趣 旨

1　はじめに

本校は、たつの市の南部に位置しており、児童数は 416 名、学級数は特別支援学級６学級を含む 19 学級となっている。校区は、国立公園に指定され、海水浴や潮干狩りが楽しめる新舞子浜や牡蠣の養殖が盛んな室津漁港、広大な綾部山梅林、国指定重要文化財の賀茂神社、宿場町として栄えた室津の町並みなど、年間を通じて多くの観光客が訪れる。

町内にある御津小学校と御津中学校とは、距離が約 800m離れているものの 9 年間人間関係が変わらないという１小１中の利点をいかして、小中一貫教育を推進している。

2　具体的な取組

(1)　小中連携

ア　小学校教諭と中学校教諭との協働による高学年授業（兵庫型学習システム中学校 C）

イ　クラスルームイングリッシュの統一

ウ　児童生徒の英語に対する意識調査アンケートの実施と分析

(2)　学校外との交流

ア　小６と中１の外国語動画交流

イ　校区在住の外国の方との手紙交流

ウ　市内小学校間でのオンライン交流

エ　海外とのオンライン交流

(3)　他教科との連携

ア　家庭科との連携

イ　理科との連携

(4)　日常的なＡＬＴとの交流

3　おわりに

授業では、伝える相手を意識したコミュニケーション力を図る場をつくることと、単に単語を覚えるのでなく具体的な場面や目的に応じた適切な表現を習得できるよう指導することを大切に取り組んできた。また、小中の教職員が交流し、教科指導でも連携を進めたことは、中１ギャップを減らすことにもつながった。児童のアンケートでは、外国の人ともっとつながりたいとの意欲は高いものの、実際に使う場は少なく、英語を身近に感じることができていない現状がある。今後も、英語をコミュニケーション手段として積極的に使って自己表現できるよう支援していきたい。

兵小長研究大会　第1分科会（学校経営）参加者名簿

3階 第2会議室（中ホール）

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	明石小	西原　直人		A	
2	明石市	松が丘小	荒川　　勝		B	
3	明石市	朝霧小	桑原　　渉		C	
4	明石市	人丸小	藤田　　靖		D	
5	加古川市	神野小	安茂　聖二	①記録	E	
6	加古川市	鳩里小	嶋　　基伸	①司会	F	
7	加古川市	平岡東小	堀之内健志	①提案	A	
8	高砂市	伊保小	山口　　收		B	
9	加古郡	母里小	木村　明宏		C	
10	西脇市	日野小	橋尾　和紀		D	
11	三木市	自由が丘小	大塚　康生		E	
12	三木市	緑が丘小	佐野　順子		F	
13	小野市	小野東小	森田　史生		A	
14	加西市	北条東小	別府　義文		B	
15	加東市	米田小	登　　光広		C	
16	多可郡	中町南小	橋本　　衛		D	
17	姫路市	飾磨小	井上　敏雄		F	進行
18	姫路市	南大津小	筒井　康夫	運営委員	A	進行
19	姫路市	莇野小	福山孝次郎	運営委員	B	進行
20	姫路市	安富南小	長谷川靖子		C	進行
21	姫路市	豊富小中	畑本　秀樹		D	進行
22	神崎郡	寺前小	多田　謙吾	②司会	E	進行
23	神崎郡	高岡小	中正　達也	②提案	F	
24	神崎郡	神崎小	岸原　史明	②記録	A	
25	たつの市	神岡小	八木　利仁		B	
26	たつの市	新宮小	井口　浩一		C	
27	たつの市	播磨高原東小	中尾　　靖		D	
28	相生市	若狭野小	北本　洋志		E	
29	宍粟市	河東小	城田　秀樹		F	
30	宍粟市	一宮北小	田中　健三		A	
31	豊岡市	清滝小	田中　裕之		B	
32	豊岡市	新田小	吉岡　靖麿		C	
33	養父市	伊佐小	藤本　新吾		D	
34	朝来市	山口小	小畑　俊史		E	
35	美方郡	浜坂東小	山本　和正		F	
36	美方郡	柴山小	上田　通治		A	

兵小長研究大会　第2分科会（教育課程）参加者名簿

4階 第6会議室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	林小	飯田　聡子		A	
2	明石市	鳥羽小	松本　正史		B	
3	明石市	和坂小	久米　高弘		C	
4	加古川市	加古川小	境　　眞稔		D	
5	加古川市	氷丘小	衣笠めぐみ		E	
6	加古川市	野口小	江指　容子		F	
7	高砂市	高砂小	坂田　克己	①司会	A	
8	高砂市	米田西小	岡本　浩子	①記録	B	
9	高砂市	伊保南小	村田　佐織	①提案	C	
10	加古郡	加古小	野邊　久美		D	
11	加古郡	蓮池小	松井　恵子		E	
12	西脇市	楠丘小	髙田祐久子		F	
13	三木市	豊地小	勝部　浩子		A	
14	三木市	吉川小	冨田　佳泰		B	
15	加西市	九会小	安富　重則		C	
16	加西市	泉小	前田　耕一		D	
17	加東市	滝野南小	神田　英昭		E	
18	姫路市	曽左小	林　　洋介	運営委員	F	
19	姫路市	峰相小	船曳　則成		A	進行
20	姫路市	白鳥小	辰巳　智子	運営委員	B	進行
21	姫路市	大津小	米田　直樹		C	進行
22	姫路市	家島小	井ノ坂泰生		D	進行
23	姫路市	古知小	西岡　　徹		E	進行
24	神崎郡	福崎小	千家　利久		F	進行
25	たつの市	越部小	奥村　敏昭		A	
26	たつの市	半田小	國延紀代美		B	
27	揖保郡	斑鳩小	八木三佐代		C	
28	相生市	青葉台小	大塚まゆみ		D	
29	赤穂市	尾崎小	中林　晴之		E	
30	赤穂市	赤穂西小	池田　達哉		F	
31	宍粟市	はりま一宮小	浅田　和典		A	
32	豊岡市	小坂小	仲本　修二		B	
33	豊岡市	竹野小	宇川　博久		C	
34	養父市	建屋小	西山佳代子	②記録	D	
35	養父市	大屋小	垣尾　正幸	②司会	E	
36	養父市	関宮学園	安東　博之	②提案	F	
37	朝来市	中川小	岸本　達也		A	
38	美方郡	温泉小	藤元　雅之		B	

兵小長研究大会　第3分科会（現職教育）参加者名簿

3階　第1会議室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	藤江小	粟田　星可		A	
2	明石市	花園小	宇城　健次		B	
3	明石市	貴崎小	中野裕香子		C	
4	加古川市	平岡小	木舩　和幸		D	
5	加古川市	別府小	北野　裕人		E	
6	加古川市	八幡小	日置　達則		F	
7	高砂市	曽根小	梶川　修二		A	
8	加古郡	天満小	丸山　一也		B	
9	西脇市	比延小	脇谷　哲史		C	
10	三木市	広野小	藤川　　桂		D	
11	小野市	来住小	中西　満美		E	
12	加西市	加西特別支援	多田　俊朗	②提案	F	
13	加西市	富田小	菅野　裕之	②司会	A	
14	加西市	富合小	高見　秀樹	②記録	B	
15	加東市	三草小	藤原　良二		C	
16	多可郡	中町北小	定本　隆志		D	
17	姫路市	英賀保小	福中　貴彦	運営委員	E	
18	姫路市	城北小	西野　　謙		F	進行
19	姫路市	城陽小	西川　康成	運営委員	A	進行
20	姫路市	手柄小	土居　正人		B	進行
21	姫路市	広畑第二小	三木　達也		C	進行
22	姫路市	大塩小	田中　彰子		D	進行
23	姫路市	菅生小	三村　　誠		E	進行
24	たつの市	揖西西小	新家　洋一		F	
25	たつの市	河内小	村瀬　　茂		A	
26	赤穂市	坂越小	小野　晴也		B	
27	赤穂郡	上郡小	森中　　誠	①司会	C	
28	赤穂郡	山野里小	安西　浩美	①記録	D	
29	赤穂郡	高田小	藤本　憲正	①提案	E	
30	宍粟市	城下小	和田　光弘		F	
31	豊岡市	合橋小	廣井　芳典		A	
32	豊岡市	五荘小	澤田　　毅		B	
33	養父市	広谷小	川見　丈明		C	
34	朝来市	東河小	椿本　義徳		D	
35	美方郡	浜坂南小	株本　和則		E	
36	美方郡	余部小	山崎　和彦		F	

兵小長研究大会　第4分科会（生徒指導）参加者名簿

4階 第3会議室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	大久保小	濱谷　達也		A	
2	明石市	大久保南小	敦見　信彦		B	
3	明石市	高丘東小	田淵　博宣		C	
4	加古川市	陵北小	長谷中史敏		E	
5	加古川市	平岡南小	中尾　美樹		F	
6	高砂市	荒井小	佐藤　香織		A	
7	加古郡	天満南小	平田　淳裕		B	
8	西脇市	重春小	田口　久雄		C	
9	三木市	平田小	横山　康文		D	
10	小野市	下東条小	西村奈保子	①提案	E	
11	小野市	小野小	藤原　正伸	①司会	F	
12	小野市	大部小	藤野　政憲	①記録	A	
13	加西市	宇仁小	森脇　義記		B	
14	加東市	社小	井上　　聡		C	
15	姫路市	前之庄小	柿本　由子	②提案	D	
16	姫路市	妻鹿小	弓岡　玉緒	②司会	E	
17	姫路市	勝原小	藤田万由美	②記録	F	
18	姫路市	野里小	中川　宣浩		A	進行
19	姫路市	城西小	堀　美和子		B	進行
20	姫路市	八木小	冨士原伸人	運営委員	C	進行
21	姫路市	大津茂小	山口　直樹		D	進行
22	姫路市	花田小	山田　隆文	運営委員	E	進行
23	姫路市	安富北小	稲本　　毅		F	進行
24	たつの市	揖保小	山田　晴人		A	
25	たつの市	香島小	西川　賢次		B	
26	たつの市	神部小	岸本　裕希		C	
27	相生市	双葉小	國本　直嗣		D	
28	赤穂市	御崎小	清水　　浩		E	
29	宍粟市	山崎小	廣居　克彦		F	
30	宍粟市	戸原小	春名　隆行		A	
31	豊岡市	府中小	山本　考一		B	
32	豊岡市	城崎小	御栗　康嗣		C	
33	豊岡市	豊岡小	和田　晃典		D	
34	養父市	養父小	篠岡　博章		E	
35	朝来市	糸井小	志水　健一		F	
36	美方郡	照来小	田中　豪士		A	
37	美方郡	射添小	伊藤　　徹		B	

兵小長研究大会　第5分科会（人権教育）参加者名簿

4階 第4会議室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	高丘西小	金井　一郎		A	
2	明石市	谷八木小	石見　純子		B	
3	明石市	江井島小	植田　明代		C	
4	明石市	魚住小	藤井　生也		D	
5	加古川市	浜の宮小	土師　康史		E	
6	加古川市	野口北小	小宮　美和		F	
7	加古川市	志方小	筒井由紀奈		A	
8	加古郡	播磨町立播磨南小	都倉　聖子		B	
9	西脇市	桜丘小	柳川瀬輝彦		C	
10	三木市	三木特別支援	橋本　泰一	②提案	D	
11	三木市	三木小	横田　浩一	②司会	E	
12	三木市	自由が丘東小	井上紀代美	②記録	F	
13	三木市	口吉川小	岩本　充洋		A	
14	小野市	小野特別支援	岩佐　直彦		B	
15	加西市	日吉小	菅野　孝二		C	
16	加東市	滝野東小	小林　豊茂		D	
17	多可郡	松井小	長澤　高意		E	
18	姫路市	高岡西小	石川　一也	①提案	F	
19	姫路市	津田小	中村　暢秀	①司会	A	
20	姫路市	安室小	小林　生也	①記録	B	
21	姫路市	東小	田渕　　仁		C	進行
22	姫路市	糸引小	稲葉　一子		D	進行
23	姫路市	八幡小	万永　達也	運営委員	E	進行
24	姫路市	的形小	畠中　　誠	運営委員	F	進行
25	姫路市	上菅小	中山　純子		A	進行
26	姫路市	中寺小	大野　慎一		B	進行
27	たつの市	龍野小	田中美智代		C	
28	たつの市	揖西東小	小林　悦子		D	
29	揖保郡	龍田小	圓田　元彦		E	
30	相生市	中央小	米澤　公子		F	
31	赤穂市	有年小	西村　博子		A	
32	宍粟市	波賀小	谷尻　博誉		B	
33	豊岡市	小野小	上谷　高之		C	
34	豊岡市	神美小	熊本　淳二		D	
35	豊岡市	八条小	岩崎　弘治		E	
36	養父市	宿南小	中村　雅志		F	
37	朝来市	竹田小	小島　鉄弘		A	
38	朝来市	生野小	坂本　直美		B	

兵小長研究大会　第6分科会（健康教育・食育）参加者名簿

4階 第5会議室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	清水小	伊東　幸治		A	
2	明石市	錦が丘小	坂本　祐二		B	
3	明石市	錦浦小	廣岡　正明		C	
4	加古川市	志方東小	藤本　豊記		D	
5	加古川市	志方西小	宝来美由紀		E	
6	加古川市	氷丘南小	原　　武弘		F	
7	高砂市	阿弥陀小	赤松　祐人		A	
8	加古郡	播磨西小	藤原　由香		B	
9	西脇市	双葉小	藤井　雅子		C	
10	小野市	中番小	井上　雅規		E	
11	加西市	下里小	岩見　直美		F	
12	姫路市	高岡小	鐘ヶ江一宏	運営委員	A	
13	姫路市	水上小	金川　貴人	運営委員	B	進行
14	姫路市	置塩小	岩見　智子		C	進行
15	姫路市	香呂小	山本　啓司		D	進行
16	姫路市	香呂南小	竹内　佳子		E	進行
17	姫路市	白鷺小中	松村　康男		F	進行
18	神崎郡	八千種小	三輪　健一		A	進行
19	たつの市	小宅小	清久　利和		B	
20	相生市	那波小	横山　和彦		C	
21	赤穂市	塩屋小	山本　　亮		D	
22	佐用郡	佐用小	尾﨑　貴之	①記録	E	
23	佐用郡	上月小	篠原　弘充	①提案	F	
24	佐用郡	三日月小	松阪　智幸	①司会	A	
25	宍粟市	千種小	上山　昌秀		B	
26	豊岡市	資母小	北川　尚宏	②記録	C	
27	豊岡市	福住小	赤木　慈郎	②司会	D	
28	豊岡市	八代小	森山　健二	②提案	E	
29	養父市	高柳小	太田　由香		F	
30	朝来市	枚田小	梶原　秀規		A	
31	美方郡	浜坂西小	大森　真次		B	
32	美方郡	長井小	川元　早苗		C	

兵小長研究大会　第7分科会（特別支援教育）参加者名簿

5階 第2教室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	明石養護	髙田　善彦		A	
2	明石市	王子小	前田由美子		B	
3	明石市	二見小	古川　　薫		C	
4	加古川市	平岡北小	衣川　公彦		D	
5	加古川市	野口南小	長谷川敬志		E	
6	高砂市	北浜小	玉岡由利子		F	
7	加古郡	播磨小	穐原　清斗		A	
8	西脇市	芳田小	中根　良介		B	
9	三木市	緑が丘東小	大田　直樹		C	
10	小野市	市場小	藤原　秀文		D	
11	加西市	賀茂小	藤本　由佳		E	
12	多可郡	杉原谷小	徳平　浩也		F	
13	姫路市	余部小	山本　浩勝	②提案	A	
14	姫路市	網干小	黒田　直樹	②司会	B	
15	姫路市	青山小	岸野　雅子	②記録	C	
16	姫路市	広峰小	嵯峨　雅浩	運営委員	D	進行
17	姫路市	安室東小	三田　芳信		E	進行
18	姫路市	城東小	引地　良典		F	進行
19	姫路市	白浜小	箭吹　英信		A	進行
20	姫路市	伊勢小	上村　卓也	運営委員	B	進行
21	姫路市	別所小	南原けい子		C	進行
22	たつの市	誉田小	上田　一輝		D	
23	たつの市	東栗栖小	香田有紀子		E	
24	揖保郡	石海小	西田美香子		F	
25	相生市	相生小	相本　広幸		A	
26	赤穂市	高雄小	中元　宜美		B	
27	宍粟市	戸原小	山本　哲史		C	
28	宍粟市	蔦沢小	三木　寿和		D	
29	豊岡市	日高小	村尾　和敏		E	
30	豊岡市	三江小	河本　純子		F	
31	豊岡市	港小	岩崎ひとみ		A	
32	朝来市	大蔵小	岩野　智哉		B	
33	美方郡	兎塚小	谷田　安雄	①提案	C	
34	美方郡	小代小	安田　雅司	①司会	D	
35	美方郡	香住小	寺田　浩史	①記録	E	

兵小長研究大会　特別分科会（教育課程）参加者名簿

5階 第1教室

番号	市郡名	学　校　名	氏　　名	全体	小ｸﾞﾙｰﾌﾟ	
1	明石市	中崎小	金井有一郎	①提案	A	
2	明石市	山手小	宮田　亘	①司会	B	
3	明石市	大観小	長濵　尚幸	①記録	C	
4	明石市	二見西小	山野井昭雄		D	
5	加古川市	東神吉南小	田中　康彦		E	
6	加古川市	若宮小	上野　稔子		F	
7	高砂市	米田小	瀧野　祐一		A	
8	西脇市	西脇小	上井　千里		B	
9	加西市	北条小	吉田香代子		C	
10	加西市	西在田小	橋尾　恵美		D	
11	多可郡	八千代小	南畝　大作		E	
12	姫路市	太市小	眞島　弘行	運営委員	F	
13	姫路市	広畑小	山田　英樹		A	進行
14	姫路市	船津小	舩戸　幸光		B	進行
15	姫路市	山田小	神戸　智子		C	進行
16	姫路市	谷外小	服部　利枝	運営委員	D	進行
17	姫路市	坊勢小	岸本　智裕		E	進行
18	姫路市	四郷学院	鎌田　隆志		F	進行
19	たつの市	西栗栖小	寺前　健一	②記録	A	
20	たつの市	御津小	田辺　育恵	②提案	B	
21	揖保郡	太田小	谷口　治	②司会	C	
22	相生市	矢野小	山本　哲也		D	
23	赤穂市	原小	上田　穣		E	
24	赤穂市	赤穂小	田中　豊史		F	
25	宍粟市	山崎西小	田中美和子		A	
26	豊岡市	三方小	石井　栄二		B	
27	豊岡市	中筋小	河本　隆之		C	
28	豊岡市	田鶴野小	株本　治夫		D	
29	養父市	八鹿小	増田真知子		E	
30	朝来市	梁瀬小	南光美津子		F	
31	美方郡	浜坂北小	岡本　潔政		A	
32	美方郡	村岡小	中田　斉		B	

令和６年(2024 年)10 月 22 日

兵小長研究大会中播磨大会
ご参加のみなさま

兵庫県小学校長会会長　横谷　義秀
中播磨大会実行委員長　岡﨑　由佳

アンケートのお願い

本研究大会にご参加いただきありがとうございました。また、提案、司会、記録のみなさまには大変お世話になりました。

次回以降の兵小長研究大会を実施の参考とさせていただくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

記

１　アンケートサイト

https://forms.office.com/r/2dwz517bvq

兵小長研究大会中播磨大会アンケート

２　締め切り

令和６年(2024 年)10 月 31 日（木）まで

（参考）　アンケートの項目について

- ○　お名前、地区、支部について
- ○　８つの「研究領域・研究課題」についてどう思いますか。
- ○　分科会討議についてどう思いますか。
- ○　研究大会についてのご意見やご要望があればお聞かせください。